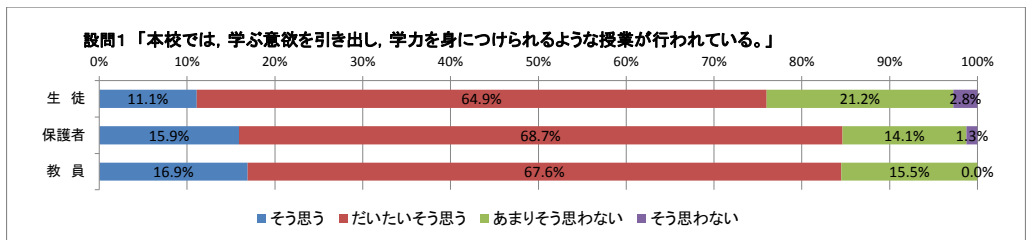
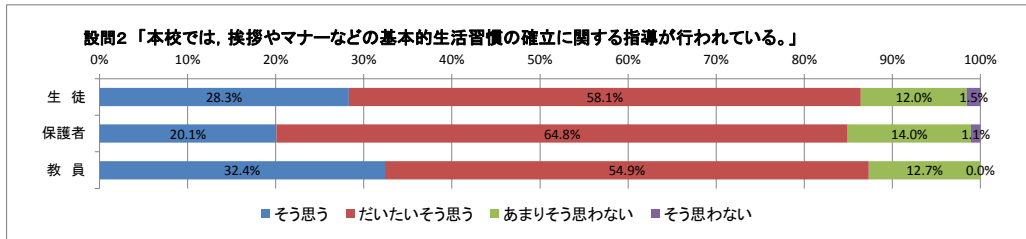


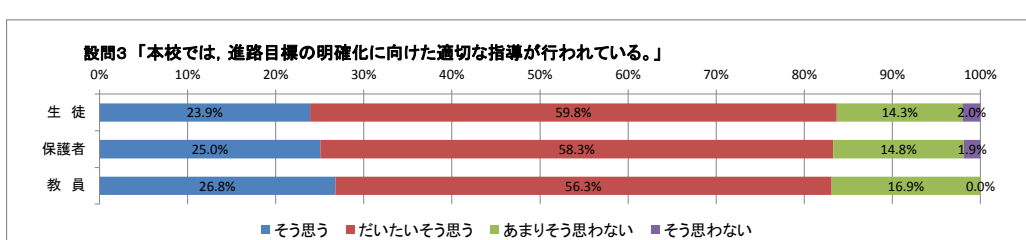
平成28年度 学校評価「設問毎」分析と対策



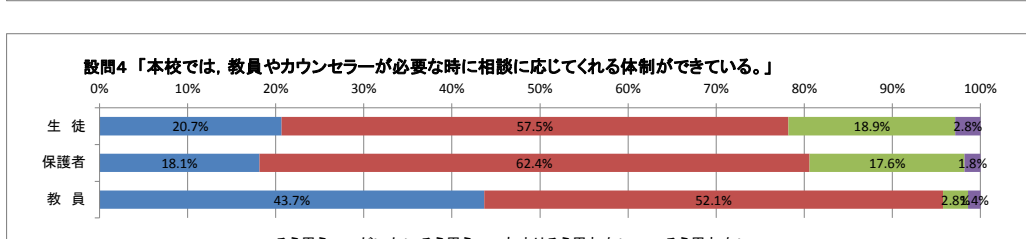
**分析と対策**  
 肯定的意見がすべて7割以上になっているが、否定的に評価している生徒が2割を超えている。約1割の生徒で保護者・教員との意識のミスマッチが生じている。生徒目線の授業展開、すなわち「わかる授業」を創出する必要に迫られていると受けとめている。アクティブラーニングの手法を取り入れた授業や、授業と家庭学習を一体化させることで学びの充実化を図るなどの取組を通して、授業のあり方について質的改善を試み、より多くの生徒から肯定的に評価される授業づくりに全校的に取り組みたいと考える。



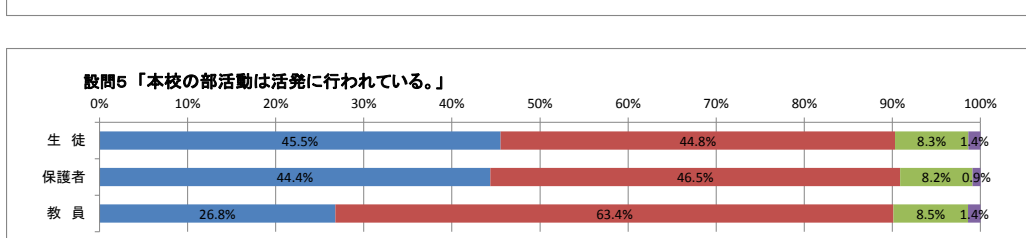
**分析と対策**  
 本校では、学年の教員が生徒昇降口で毎朝声かけ運動を実践している。放課後についても、交通安全委員とともに自転車の安全運転を呼びかけて通学路に立っている。さらに、週一回は服装チェックも行っており、これらの取組がアンケート結果に表れているものと思われる。また、生徒には挨拶を交わす習慣が根づいており、学年が上がるごとに肯定的評価が高くなる傾向が見られた。部活動に励む生徒が率先して挨拶する姿が近隣からも評価されているところでもあり、今後とも両キャンパスでの共通理解のもとに指導を進めてまいります。



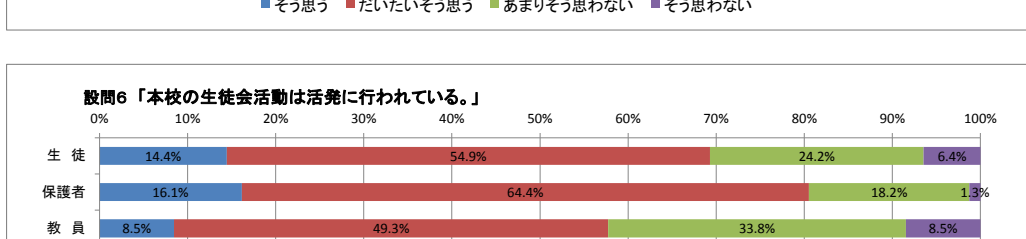
**分析と対策**  
 8割以上が肯定的な意見となっているが、「そう思う」の割合をさらに高める必要がある。宮城県最大規模の生徒数で、国公立大学から地元企業への就職まで幅広い進路指導をすることが求められるという本校の実情を念頭に置きながら、1年次から生徒の進路意識を高める機会を重要視し、保護者の方々に対しても情報発信を継続していくことが必要であろう。進路だよりの有効活用もその一つかと考える。また、進路の手引きの有効活用と進路行事についての各学年団との連携、学年内での情報共有をさらに高め、進路担当だけでなく各担任が共に連携して日々の指導に関わっていくことが重要であると考えます。



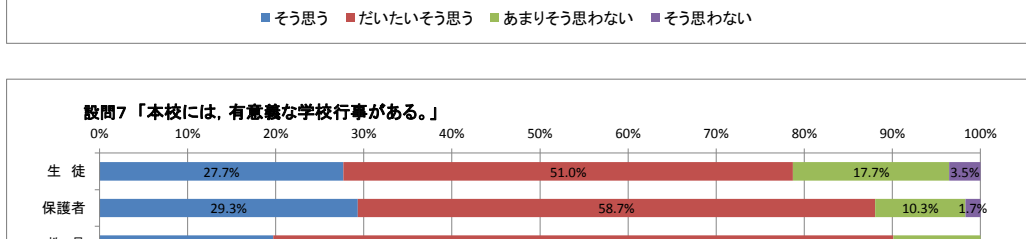
**分析と対策**  
 〇カウンセリングについて：昨年・一昨年の評価結果を受けて、入学式でのカウンセラー紹介や学年PTAでのPR、カウンセリング便り「泉ヶ岡」の毎月発行とホームページやほけんだよりへの掲載、案内の教室掲示等、広報活動に努力してきた。その成果もあつたが、今年度は保護者からの問い合わせや来談が多く、また、生徒・保護者共に利用数も増加していることから確実に認知度は上がっている。  
 〇設問4は多くの生徒・保護者が、担任や教員に対する設問と捉えて回答していると思われる。否定的評価を重く受け止め、全職員で生徒の話を聞く努力が必要と思われる。



**分析と対策**  
 生徒・保護者・教員すべて、肯定的評価が9割を超えている。13の質問項目のうち9割を超える回答はこの「部活動」のみであり、2キャンパスの施設を生かして多様な部活動が盛んに行われていることが高い評価に結びついている。学校教育のもとで部活動は、生徒の精神的な発達を促す大切な役割を担っている。自由記述欄には、活発な活動に関する賛否さまざまなご意見を寄せていただいた。帰宅時間が遅くなり、家庭学習との両立が難しい現状もご指摘いただいた。生徒の健康面や怪我の防止を考え、練習時間なども考慮して質の高い活動を目指したい。

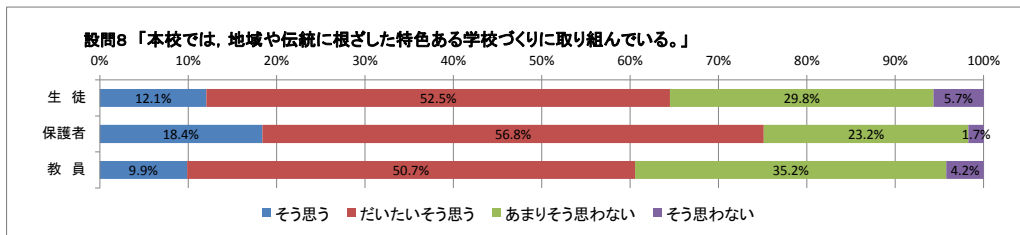


**分析と対策**  
 教員の肯定的評価が目立って低いことに特徴がある。「生徒会活動」イコール「生徒会執行部の活動」になってしまっている現状を見ているからと思われる。本来の生徒会活動は、全校すべての生徒が学校生活の向上を図るために活動することで社会性を養い、望ましい人間関係を育むことを目的としている。しかし、生徒会行事も実行委員会こそ組織されるが、計画立案から運営まで教員主導で動かさざるを得ないのが現状である。まずは、指導にあたる教員が中長期的に執行部を担当し、着実に生徒間のリーダーを育てていける体制づくりから始めたい。

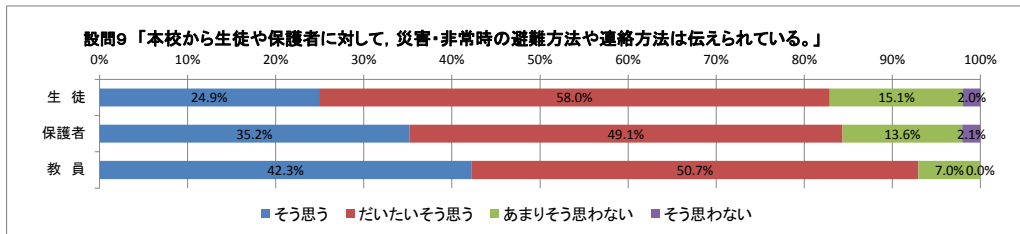


**分析と対策**  
 保護者の肯定的評価は9割に近く、保護者は本校の学校行事に良好な印象を持たれていると思われる。生徒の肯定的評価は8割弱ではあるが、近年の比較では最も高い数値に達している。「塩高祭」や「体育祭」に積極的に生徒の要望を取り入れるなどの改善の取組が評価されていると思われる。今後は個々の行事に活性化策を講ずることに加えて、生徒が自ら企画運営に携わる力を育てたい。主体的な取組を増やすことで、関連する設問6「生徒会活動」の評価も向上すると思われる。

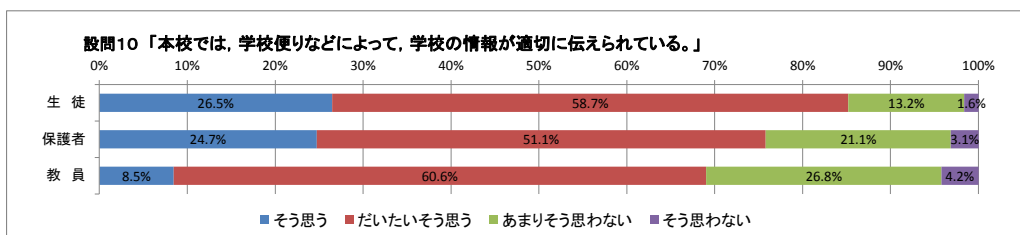
平成28年度 学校評価「設問毎」分析と対策



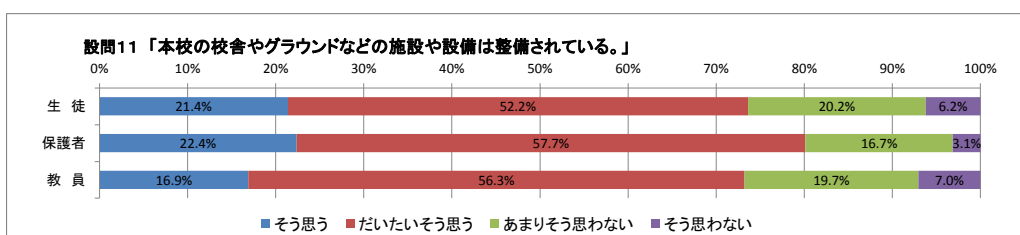
**分析と対策**  
 高等学校が地域に根ざすのは、学校教育の性質上なかなか難しい課題ではある。教員の否定的評価が4割弱に達しているのは、その難しさの反映と思われる。生徒にも同じような傾向が見られるが、保護者の否定的評価はやや少ない。部活動単位での地域貢献活動を間近にされているからであろうか。逆に、一般生徒にその情報が行き渡っていない可能性が考えられる。学校だまりのような媒体での情報提供も一つの改善策になるのではないかと。また、「塩釜」の歴史や文化を授業の中で紹介する試みも有効かと思われる。まずは教員側が地域を学ぶことから始めたい。



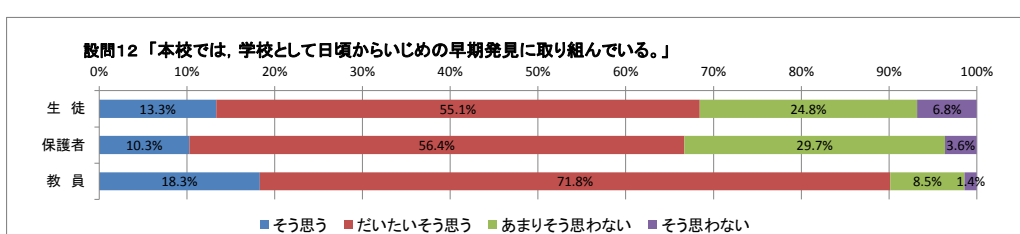
**分析と対策**  
 防災は2年前の学校評価で最下位の評価だった。その後、2年をかけて「防災マニュアル」を全面改訂し、防災管理・防災組織・防災教育の骨子を明確にした。本年度は新たに「家庭用防災マニュアル」を作成し、防災に関する取組を生徒や保護者の視覚に訴えるよう試みた。また、こうした活動をホームページで公開し、さらに学校内外に対しメールリストを活用して防災関連情報を提供した。こうした地道な活動の結果、今回の学校防災に関する評価は著しく向上した。本校の防災に関する今後の課題は防災教育の充実であることから、新入生入学後の取組がそのカギになると考える。



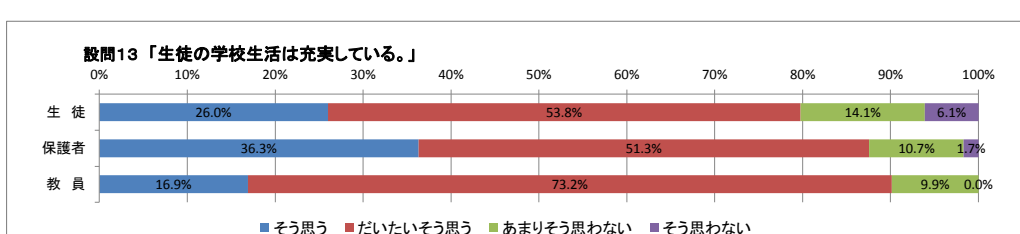
**分析と対策**  
 学校からの情報提供に関する設問である。学年からは「学年便り」や「クラス便り」が配付されている。保健厚生部は定期的に「泉ヶ丘」を発行。総務部は、学校要覧・学校案内・PTA会報・同窓会報・PTAカレンダーを配付したり、ホームページを活用してPTAや同窓会活動について紹介している。また、メールリスト(生徒の登録状況94%)を活用し、これまで計41回のメール配信を行うなど学校内外に効果的な情報提供を行っている。肯定的評価が伸びない要因は、設問の項目が「学校便り」に特化しているからではないか。今後とも、積極的な情報発信に努めたい。



**分析と対策**  
 本校の西キャンパスは平成8年に現行の校舎になり、築後20年が経過した。東キャンパスは昭和63年から平成元年にかけて現行校舎になり、築後28年を越えている。いずれの校舎も20年以上使用していることから、建物本体のみならず設備の不具合が増えている。不具合に対応するため県に修繕費用の増額を要望し、県内高校で最も多い予算を受けている。しかしながら、2キャンパスを有する大規模な施設であるために、予算面・人的面で対応が追いつかないところがある。今後は予算的な制約はあるが、中長期的な修繕計画を立て整備を進めていきたい。



**分析と対策**  
 学校では定期的にアンケートを実施しているが、目に見える積極的な啓発活動(いじめ防止運動など)を行ってきたわけではないので、生徒の評価が低くなっているものと思われる。アンケート自体も形式化していることが考えられるので、来年度は自宅で記入するなどの工夫も必要である。いじめ問題対策委員会を定期的に開催し、年間計画の見直しも図りたい。また、学年間の比較では、学年が下がるほど否定的評価が高くなっている傾向が見られた。人間関係が流動的な新入生に対して、より細やかな配慮が必要である。生徒の心の成長に寄り添いつつ、人権意識を育む施策を講じたい。



**分析と対策**  
 生徒の8割、保護者の9割近くが学校生活に満足している様子がうかがえる。しかし、それでも県平均値よりはやや低い結果となっている。学校生活全般(授業・部活動・校則・行事等)に対して、生徒はさまざまな思いをアンケートの自由記述欄に書いていた。授業振り返りアンケートや学校評価アンケートなどの結果を通じて、生徒一人ひとりの要望に応えられるよう改善を進めることが大事である。生徒の日頃のつぶやきにも耳を傾け、学校生活の充実を目指していく努力が必要である。